

조선일보

ここが知りたいQ & A/産経新聞が「北の横流し」記事を書いたが

すぐに誤報と判明、関係者は嚴重抗議/反共和国謀略の底の浅さ露呈

Q 産経新聞が「トウモロコシ横流し」などと反共和国謀略記事を掲載したが。

A すぐに誤報だったことが分かり、世論の厳しい非難を浴びている。産経は共和国の万景峰号が青森港にトウモロコシを陸揚げした事実を持って、7月17日付朝刊トップで「北朝鮮 穀物、日本に輸出 トウモロコシ1030トン 外貨獲得狙い支援、横流し？」とセンセーショナルに報じた。

しかし、このトウモロコシは中国産で吉林省から共和国の清津を經由して日本の青森港に至るルートで輸出された養鶏用飼料であった。中国産であることを示す原産地証明書などの書類もきちんと揃っている。輸入業者などの当事者に問い合わせれば簡単に分かることなのに、それすらも怠った。謀略報道の意図が露骨なお粗末な記事だ。

Q 日本政府も、中国産であることを確認したというが。

A そうだ。梶山官房長官は翌18日午前の記者会見で、青森県の畜産業者が「中国産トウモロコシを北朝鮮経由で輸入した」と説明していると、事実上、産経の報道内容を否定した。

Q 輸入元などの関係者はどう対処したのか。

A 商取引に悪影響を与えたと心底、怒っている。7月22日、輸入元など朝・日の関係者が東京本社に抗議に訪れ謝罪と訂正を要求した。産経側は「見出しは『支援 横流し?』となっており、『?』を付けた」などと弁明した。「?」うんぬんは苦しい言い訳に過ぎない。記事では「北朝鮮から、日本向けにトウモロコシ1030トンが輸出されたことが16日、産経新聞の調べで分かった」と決め付けていた。同紙は24日付に「北朝鮮から搬入のトウモロコシ 原産地は中国」と誤報を認めた2段見出しの記事を載せた。意図的な今回の記事を流して反共和国世論を煽り、国際的な食糧支援の動きを牽制しようとしたが、恥をかくことになった。

Q 産経はこれまでも度々、反共和国謀略記事を書いてきたが。

A 産経は「反動勢力がマスコミの一角に打ち込んだ橋頭堡」(「マスコミ黒書」日本ジャーナリスト会議編)として反共、保守の擁護や社会主義、民主勢力に対する攻撃に全力を傾けてきた。さらに、これまでも「在京朝鮮半島筋」とか「日朝関係筋」などの筋情報を利用して騒いできた。この「筋情報」が曲者で、それらはほとんど在日南朝鮮大使館や安企部、日本の公安調査庁からの情報だ。今回は「産経新聞の調べで分かった」と自慢げに書いたが底の浅さを自ら露呈したと言える。

Q これまで中国産のトウモロコシが共和国経由で日本に輸出されたことはあるのか。

A 今回が初めてだ。それまでは大連経由の中 - 日のルートだったが、今回は羅津、清津経由の中 - 朝 - 日のルートが開発されたことに意義がある。日数も5日間以上短縮できるという。これは羅津 - 先鋒自由経済貿易地帯が91年12月に設定されてから初の共和国を経由した中日貿易ルートの実現である。国際中継貿易基地としての同地帯の展望の明るさを示す1つの例でもある。今回、それがクローズアップされたのは皮肉だ。